

- ☆ 蒲田駅エスカレーターの改善はJR本社と大田区長の責任！
- ☆ 障害者もだれもがいつでも蒲田駅を利用できるように改善を！
- ☆ JR蒲田駅(員)は障害者差別を謝罪し、誠実な介護を！
- ☆ 夜11時以降もエレベーター・エスカレータが使えるように！

# 2005. 2. 27 JR蒲田駅障害者差別事件

あれから1年でも…

< ある一日 >

今年1月24日、車椅子で出かけた私は、王子駅からJRを利用して蒲田駅まで帰りました。王子駅の駅員は、「蒲田駅に連絡を入れた。」と言ってくれました。

でも、蒲田駅に着くと駅員は昇降板をもって来ていません。周りの人は「危ないよ」と言ってくれたけど、乗客にどいてもらって介助者と自力で電車から降りるしかありませんでした。

蒲田駅の駅員はとうとう誰も来ず、改札口で抗議をしたけれどそれでも駅員は来ませんでした。

こんな事が一体いつまで続くのか？「障害者が安心して暮らせる、やさしい街づくり」を掲げる大田区に、蒲田駅エスカレーター改善の申し入れをしても、この一年間何一つ対策をしませんでした。



現在も続いている障害者への差別…

耐震偽装の大田区、尼崎 脱線事故のJRは何も考えないのか！？

「交通バリアフリー法」？「ハートビル法」？

ホテル東横インの障害者差別事件はいまここにある問題です

## 2005.2.27 JR 蒲田駅差別弾圧事件 とは？

昨年2月に、JR 蒲田駅で車椅子障害者が、駅員から介護拒否をされ、逆に私の介助者が逮捕されるという、信じられない事件が起きました。

この日私は終電間際に電車に乗ろうとして、駅員に介護拒否をされました。エレベーターやエスカレーターも夜11時以降は止められているため、仕方なくまだ開いていたお店の店員さんに手伝ってもらい、やっとホームに着きました。

ところが「人がいない」という理由で介護拒否をしたはずの駅員が、隣のホームにたむろしていたのです。私と介助者がそれに抗議したところ、なんと警察を呼び、一方的に「被害届」を出して警察に介助者を逮捕させたのです。その間、私は置き去りにされ、終電車に乗る事もできませんでした。

もちろん、こんなめっちゃくちゃな逮捕が通るわけがありません。蒲田警察署は、犯罪をなんとかでっち上げようとはしましたが、起訴も出来ず、釈放せざるをえませんでした。

その後、JR東日本本社と大田区役所に事件の謝罪と、駅員対応や蒲田駅エスカレーターの改善を申し入れました。蒲田駅のエスカレーターは、駅の東西通行に責任を持つ大田区役所の管轄です。税金で賄われているエスカレーターが夜11時以降利用もできずその為、車椅子の障害者は蒲田駅に上がることすらできません。こんなことがいつまでも許されてよいはずはありません。

JRはJR西日本の脱線事故を起こしても、人命無視、安全軽視を反省せずに、今だ障害者の安全な駅利用に責任を持ちません。

大田区は姉歯一耐震偽装に加担するという恥を全国にさらしても反省せず、蒲田駅の設備改善を行おうとはしません。うわべだけの「障害者が安心して暮らせる街づくり」を掲げても、その実、区民が安心して暮らせない「耐震偽装のまちづくり」しかできないお粗末さです。

あの事件から1年……。記憶に新しいホテル東横インの障害者差別事件は、いまここにある、JR蒲田駅障害者差別事件なのです。

私、鈴木敬治は大田区に生まれて、54年間、ここ大田区で暮らしています。重度身体障害者である私が、大田区に対して、そして社会に対して感じていることがあります。それは、みんな全てがあまりにも忙しく働き、そしてめまぐるしく動かなくては生きていけないような社会になってしまったということなのです。

しかも、この社会のスピードからつまはじきにされた人々、生きていくことができなくなってしまった人々が増え続けていると思います。しかし、今、一度立ち止まって、健常者も、障害者も、大人も子どももだれもが、暮らしやすい場を作ることを目指さなきゃいけないのではないのでしょうか？そうでなければ何の為にこの社会に生まれ、みんなこの社会の一員として生きているのかワケが分からなくなってしまいます。少なくとも、大田区に暮らす私は、私たち自身の力で、ここ大田区を良くしていきたいと考えます。

大田区の様々な問題はこのJR蒲田事件だけではありません。私達、大田区に住む障害者は2年前外出・社会参加の保障を1日1時間に制限されてしまいました。大田区の予算上の理由が外出保障制限の根拠なのです。私はそれ以前は、1日4時間の外出／移動の保障を受けていました。2年前のある日突然、1日1時間に制限されてしまい、生活していくのが本当に困難になってしまいました。

そこで私は昨年、大田区長を相手に裁判を起こしました。先日、その裁判の第2回公判がありました。そこで大田区の言い訳を聞いたのですが、あまりのデタラメぶりに、あ然とするばかりでした。無理やり障害者に1日1時間の制限をあてはめて、それで問題はないし、間違ったことではないと開き直るのです。

他でも述べましたが、大田区は「障害者にやさしい街づくり」「障害者が安心して暮らせる街」などと掲げています。しかし、私には、「安心して暮らせない街」「耐震偽装の不安な街づくり」をしているとしか思えません。今、大田区が「安心」という言葉を使うならば、それはウソです。大田区を一から叩き直しここで全てを改めさせて、基本の理念を私達みんなの協力で作り直してこそ、本当に、だれにでもやさしい、安心して暮らせる街にしていけるのではないのでしょうか？

大森在住：鈴木敬治